

玉川上水・野の花だより No. 16

ノアザミ (*Cirsium japonicum*)

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

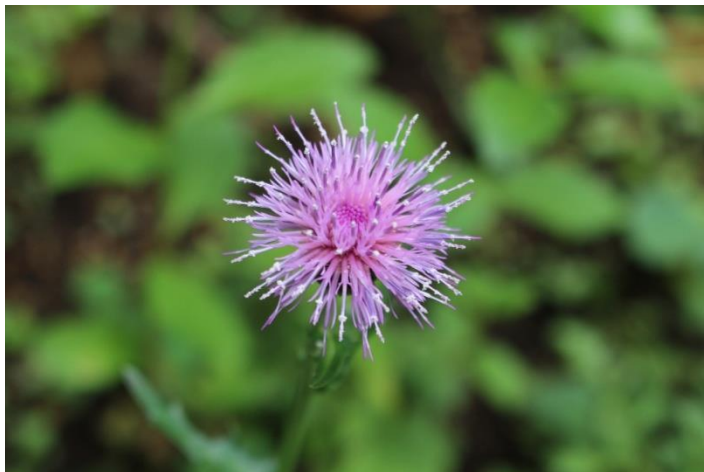
2026年 6月3日

様ざまな野草にうずもれていた中から、背筋を伸ばし、先端についた小さな球形の蕾がふくらみ、ノアザミが咲き始めました。日本の固有種で日当たりのよい草原に咲く、孤高の花です。刺があるため、刈り取られることが多いのですが、他に迎合しない凛とした風情のある、気品のある野の花です。

草丈は、50~100cmになることもあり、頂部に多数の筒状花をつけます。花の色は淡紅色~淡紫色で、白色のものもみられます。

アザミは、世界に300種もあり、一国の文化と深く結びついているのは、スコットランドで、国花となっています。ヴァイキングの侵入との闘いで、侵入してきた兵士が刺のあるアザミを踏み、スコットランド兵を救ったという伝説があります。国花に制定されたのは、スコットランド王ジェームズ3世（在位：1452年—1488年）の治世下で、現在でも「誇り」高い花として、スコットランドの最高の勲章（Order of The Thistle）となっています。

日本のアザミは、刺のある鎧（よろい）のような「守り」の姿と頂部の繊細な花のギャップが、心をとらえるのでしょうか、歌のなかに、しばしば登場します。昭和歌謡の名曲「あざみの歌」では、「山には山の愁いあり」と歌っています。井上陽水の「少年時代」では、「夏が過ぎ、風あざみ」と、移ろいゆく時の流れの中に「虚空」を生み出し、遠い世界に人をいざないます。都会では、ほとんど見ることができなくなったノアザミ、大山緑道で巡り合うことができます。



ノアザミ

2026年6月2日

撮影